

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1		
自己評価作成日	平成26年9月24日	評価結果市町村受理日	平成26年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500819-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今までの生活を継続して行ってもらいように、利用者様の一人ひとりのペースを十分に把握して生活してもらいように、心がけています。 そして、法人の理念の「地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します。」をモットーに、医療と介護の両面から利用者様をサポートする体制を整えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は市街地の国道沿いにあり、広い敷地に小規模多機能型居宅介護事業所とデイサービスが併設され、一角には家庭菜園やガーデニングが楽しめるコーナーもある。事業所は、平屋でコの字型に建てられているため、各ユニットの利用者は自由に行き来でき、行動範囲が広く、利用者の身体機能の維持に繋がっている。職員も行き来し、2ユニット全員の利用者把握することができ、利用者と気どころ分かり合える関係で対応がなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも目に出来るように、理念を掲示したり、名札に携帯をして、職員全員が確認できるようにしている。それをみて、利用者が普通の生活が出来るように支援している。	利用者の生活の場である事を常に考え、職員と一緒に、ひとつ屋根の下に住む家族のように、在宅での生活に近い暮らしの支援を理念としている。職員は常に利用者個々の生活が理念に沿っているかを見極め、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会に招待されたり、自治会の夏祭りに呼んでいただいたりしている。また、日曜日に、職員と地域の清掃をやりながら、声かけを近隣の方にしてもらっている。	自治会に加入し、夏祭りや近隣清掃など地域行事に参加している。小学校運動会への招待や、幼稚園児の来訪を受けている。地域ボランティアや福祉体験の場として、学生の受け入れなどで地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人から地域の方や民生委員の方に声かけを行い、認知症の勉強会を行ったりしている。運営推進会議で、自治会長さんや、民生委員さんからの、情報交換から、相談や対応などを聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の下肢筋力低下が進んできているために、体操を取り入れたりしてはとの意見があり、今までの体操に追加して行うようにした。	隔月に関係者の出席を得て実施している。議題には主に利用者状況、ヒヤリハット報告、行事活動等である。以前、火災訓練報告の際、スプリンクラーが作動する場合の避難誘導について、出席者から意見や助言が出され、誘導手段の見直しがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からのメールなどの情報をもとに、食中毒や感染症の時期に、施設全体で注意したりして、職員全体に周知するように、申し送りを行っている。	市との情報交換は主にメールで行われている。これからの時期に発生しやすいノロウイルスや、インフルエンザ、肺炎球菌などの感染症対策にも、いち早く注意が向けられ、行政主催の研修会、連絡会へ参加し、利用者の健康管理につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は消灯とともにやっているが、それ以外の拘束は行っていない。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。拘束ゼロに伴うリスクに関しても研修を行い、検討をしている。ケアの方法など、具体的な場面を想定して、安全面に徹底した取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外出や外泊をされた時は、職員二人で入浴時に身体をチェックを行っている。 法人内では、年1回の勉強会を行い、職員全員に周知できるようにしている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今は対象になる方は見えないが、法人内の地域連携課に相談しながら、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前も施設見学や説明を行い、理解してもらっている。 退去時も事前に家族様に様子や説明を行い、理解してもらい、解約をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を行い、意見を聞いたりしている。また、普段より家族様に小まめに連絡を取り、意見や要望を聞くようにしている。	菜の花通信を家族宛に送付している。事業所からのお知らせと共に、利用者の様子が分かる写真を掲載し、家族の意見や要望を聞いている。クリスマス会を兼ねての家族会でも、沢山の参加があり、意見・要望を聞き出す良い機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで、職員の意見や提案を聞いて、伝達会議であげている。(月1回)	管理者は、職員の家庭の事情を優先して勤務体制を整えており、安心して働ける職場となり、職員のモチベーション、定着率につながっている。職員の意見や要望を聞く機会を持ち、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事課が年に何回か、職員個々に話を聞いたり、法人内で年1回功労賞をたたえ、忘年会で表彰してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回自己の目標をたて、それに向けて取り組んでいってもらっている。人事考課で、自分・主任の評価を行っている。 月1回以上法人内で勉強会を開催して、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での勉強会に参加して、ミーティングなど伝達している。敷地内のデイ・小規模と防災訓練やAEDの研修を合同で行い、協力意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、事前に情報を聞き取り、アセスメントをとり、今までと変わらない生活が送れるように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には十分に説明を行い、本人の不安や不満につながらないように、常にオープンにして、いつでも面会出来るように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が車椅子での生活が希望であれば、事前に家族と話をし、車椅子の購入やレンタルを行ってもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホールで夜中まで過ごしたい方には、ソファですごしてもらったり、入浴の順番を変えてみたり、食事の時間や場所をかえたり、希望に沿って援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に報告したり、家族への手紙や菜の花たよりでお知らせしたりして、施設での生活を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会時に施設での写真を見ていただいたり、近況をお話して顔を見に来て頂いている。	併設のデイサービス利用者と交流ができ、新しい馴染みの関係が生まれている。親戚、知人の来訪で、利用者と地元の会話に花を咲かせることもある。職員は再来につながる声掛けに努め、馴染みの場所へは 家族の協力を得て出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話をされる人同士で横に座っていただいたり、同じ趣味の方同士で、歌を歌ってもらったりして、その方にあった支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて入院された方に、家族様から経過を聞いたり、老健に入所された方の家族が、施設での生活を聞きにこられ、細かく説明して、対応の仕方の相談に乗ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気分により、部屋で食べたい方は、部屋で食べて頂いたり、レクに参加したくない方は、部屋で過ごして頂いたりしている。食事も自分都合で、朝5時から食べたいと言われたら提供したり、ゆっくりと一人だけ食べて頂いたりしている。	家族からの聞き取りなどで、利用者の生活歴を把握している。また入居後の生活の中での行動や、会話を通じ、思いや意向を把握している。知り得た情報は職員間で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で野菜づくりをされた方が、夜中種まきをされているのを、見守りしたり、和裁をされた方が、針仕事をしたいといわれ、手芸をやらしてもらったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅で午後から昼寝をされていた方は、昼寝をしてもらったり、部屋でテレビを見たい方は、部屋で見えていただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族には希望や要望を聞いて、今の状態の問題点などを、本人や職員とあげていき、意見交換を行い、プランに組み込んでいる。	家族、利用者の要望など聞きながら、日々の申し送りや、介護記録を全員で検討し、介護計画を作成している。特に家族、利用者との意見交換の場を大切にし、利用者の状態変化時には、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日に何回もトイレに行くのに、部屋に放尿されるために、壁に鳥居とお経を張り、すくなくなってきた。四肢の関節の拘縮があるが、日々何回も居室からホールまで二人介助で歩行してもらい、拘縮を悪化させないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強い方で、玄関から出ようとされるが、強く引き止めないで、様子を見て敷地内をぐるっと回ってきて、話をしながら職員と帰ってこられる。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日曜日に地域清掃を職員と行ってもらいながら、近隣の方に声かけをしてもらい、顔見知りになったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と主治医と相談して、かかりつけ医をきめてもらい、可能な限り受診の同行をしてもらい、情報の交換をしたりしている。また、検査の時などは、家族の協力を得て、スムーズに医療が受けられるようにしてもらっている。	現状は協力医がかかりつけ医となっている人が多く、利用者、家族の意向を重視している。協力医の月2回の往診が早期治療につながっている。歯科医の往診体制はあるが、専門科受診については家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や日々の様子を、往診の医師や看護師へ、随時報告を行い、指示をもらい、対応している。また、その結果を、家族にも速やかに報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決定したら、すぐに介護サマリを作成して、病院のほうへ情報を提供している。また、退院がきまれば、情報をもらい、再入所にむけて、対応できるように準備しておく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診の時に、主治医と家族とスタッフと担当看護師と、十分に話し合い、病院へ移動してもらうようにしている。	開設当初は看取りも行われていたが、現在は事業所でできる医療行為について、早期に医師、家族と話し合い、連携医療機関への入院を勧めている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院と担当看護師とチームを組んで、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回のミーティングの時に、避難訓練を行ったり、年2回合同の訓練をおこなったりして、法人内で協力体制を作っている。	年2回の夜間想定を含めた防災訓練を実施している。火災を想定し、詳細な避難場所、連絡網の取り扱いなどの訓練を実施し、備蓄の点検も行われている。	火災だけでなく、地震、水害、集中豪雨などの自然災害を想定した訓練も、地域と連携して取り組めるよう、運営推進会議で検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴が長い方は、せかさないうっくり入っていただいたり、紙パンツの汚染があっても、なかなか交換させてもらえないかたは、下肢のむくみがひどいので、ベッドで横になってもらいましょうと、パンツの交換を居室で行う。	利用者の人格を尊重し、会話、言葉かけなど、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。2ユニットの利用者を職員全員が把握し、安心して過ごせる配慮、支援、工夫を日々職員間で話し合い、笑顔での支援を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホールにおられるときに、声かけて、嫌でなければ針仕事してもらったり、壁の貼り絵を手伝ったりしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝早く起きてこられ、朝食を食べたいと言われれば、他の人より早く食べてもらったり、部屋で食べたいと言われれば、居室で食べてもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に、髪をといてもらったり、眉を書いたりしてもらっている。また、自分で着たい服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きをしてもらったり、食器を運んでもらったり、食器を洗っていただいたりしている。	食事は、手作りの料理で朝・昼・夕と提供している。部屋の中に料理の匂いが漂い、利用者ができるところは手伝い、職員と共に食事をし、次の献立の話で盛り上がっている。庭で野菜を育て、収穫し、みんなで食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行い、少ない方は間に飲んでいただいたり、往診時に指示のもと、食形態を変えていたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に行ってもらう方もいるが、基本夕食後は歯磨きを行ってもらっている。人によっては、洗面台に立つたびに、歯磨きされる方もおられる。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	病院では紙おむつの方が、入所されてから、布パンツで対応できるようになった。最初は汚染もみられたが、最近は汚染はほとんどなし。	紙パンツ使用の利用者に対し、排泄パターンを把握し、時間的なトイレ誘導、声掛けなどのこまめな対応で、トイレでの排泄が可能となり、布パンツに改善された。夜間も利用者個々の状態に応じた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分摂取を促していったり、野菜を残されたりしたら、声かけて食べて頂く様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか入浴を拒否される方に、午前中に入りたいといわれたら、急遽入っていただいたりしている。	入浴は原則週2～3回であるが、曜日にこだわらず毎日入浴できる体制がある。個浴で、ゆったり入浴を楽しんだり、友人と共に入浴している。体調の悪い場合、気分が乗らない場合など無理のない柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後すぐに寝たいといわれたら、居室に行き寝てもらったり、午前中に寝たいといわれる時も、寝てもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスの中に、処方された薬の効能も入れてあり、それを確認しながら、主治医に相談しながら処方してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝に新聞を読みたい方は読んでいただき、その日の出来事を、書いてもらったり、番組欄をメモにして、見たいテレビを選んでもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の小学校の運動会に呼んでもらったり、花見や紅葉を見に行ったりして、外出を行っている。	利用者の健康状態、天候に合わせ近隣を散歩している。家族の協力で個別の外出、外泊なども楽しんでいる。季節の花見や紅葉狩りなど、ドライブにも出かけている。	菜の花通信に事業所の外出予定の記載がある。外出予定がある時は、家族にも気軽に参加を呼び掛け、利用者と一緒に外出の機会が持てる工夫があるとよい。

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設ではお金を預かったりしないために、支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいといわれる方には、受話器を渡して話していただいたり、手紙を書きたい方は、今はないが、書いていただき、出してもらったりしていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓際に、庭先の花を飾ったりして、気分をリラックスできるようにしたり、空気の入替えをして、温度調節をしたりしている。	共用の空間は広く、利用者はソファーや思い思いの場所で、安心してゆったり過ごすことができる。壁に季節の作品、折り紙、切り絵など利用者の手作り品を飾ったり、庭先で育てた花を飾るなどして共有空間をうるおいある場所にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、会話をたのしんでもらうように、ソファに座ってもらったり、ホールの隅に椅子をおき、くつろいでもらったりしている。また、玄関先で、庭をながめてもらうように、長いすをおいてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子をもってきてもらい、使用してもらったり、筆筒やベットの位置を家族の方と本人が決めてもらったりしている。	居室はシンプルであるが、清潔で、使い慣れた整理タンスや椅子など、思い思いに設置され、家族の写真や絵が飾られている。居室入口には手作りの表札がかけられ、目印にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなる方には、ネームの位置や色を変えて掲げたりしている。また、施設の雑巾作りを、職員とぬってもらったりして、あとで、針の本数をかくにんしている。		